

未来を創造するワークショップの道具箱

FUTURE VISION WORKSHOP

フューチャービジョンワークショップ



なぜ、いま「ワークショップ」なのか？



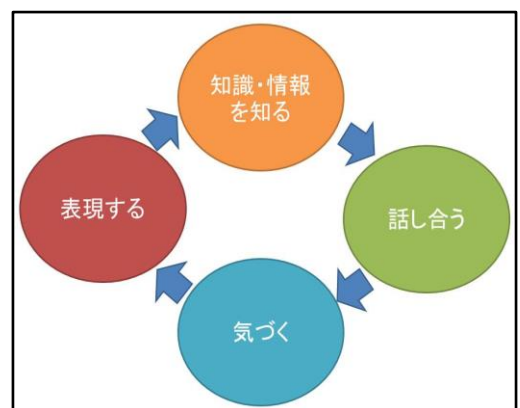
現在、地域の課題解決のための手法として、「ワークショップ」の手法が注目をされています。富山県氷見市では、本川祐次郎市長が就任されてから、「ハードからソフトへ、ソフトからハードへ」の地域づくり、まちづくりをコンセプトに、「ワークショップ」手法を活用し、市民の皆さんの声を集め、議論をしながら、丁寧な地域づくり、まちづくりが行われています。氷見市の新庁舎の建設にあたっては、住民や市の職員の皆さんでのワークショップに基づき、当初の計画から予算が3割削減されるなどの実績が生まれています。

また、三重県松阪市では、山中光茂市長が就任されてから、市の政策課題についてシンポジウムを開催し、市民の皆さんとの議論を積み重ねながら、地域づくり、まちづくりが行われています。このように、近年の地域づくり、まちづくりにおいて、「ワークショップ」や「シンポジウム」の手法は、住民の皆さんが主人公となり、地域づくり、まちづくりに参加する方法として注目されています。

ワークショップは、どのように進めればいいのか？

従来から、住民の皆さんの意見を地域づくり、まちづくりに生かす方法として、公聴会の開催やアンケートの実施などがありました。アンケートの実施は、もちろん有効であると思います。しかし、ワークショップ手法の「効能」は、住民の皆さんの意見を聴くだけではなく、お互いの意見を知り、話し合うことを通じて、みんなで「気づき」を得る、という点に大きな意味と効果があると考えます。

地域づくり、まちづくりの主役は、その地域にお住まいになっている住民の皆さんです。住民の皆さんにとって、身近な問題を、身近な地域のみんなの力で解決していく、そのためには、「自分事（ジブンゴト）」として問題を捉え、当事者として主体的にコミットメント（関与）していただくことが、解決のための重要なカギとなります。そのためには、住民の皆さんの意見を集め、お互いに話し合い、考え、そして気づき、表現することが大切になります。ワークショップは、そうしたサイクルを生み出すことができると考えます。



具体的には、以下のような手順でワークショップを展開していきます。

- ①議論するために必要な知識や情報を確認したり、新たに獲得したりする。
- ②「付箋」を活用しながら、数名のグループに分かれ、議論（話し合う）を行っていくことで、自分が知らない考え方、知識、情報に出会う。
- ③その知識との出会いから新しい「気づき」を得て、自分の考えを深める。
- ④「気づいたこと」や考えたアイディアを発表することで、他者と共有するとともに、相互に新しい知識や情報を得ることで、自分たちの考えをさらに深める。

このようなサイクルの中で、地域の課題を解決する、地域づくりやまちづくりのためのアイデアを作っていくことが可能となります。

ファシリテーターは、何をするの？



「ワークショップ」を行っていくためには、『ファシリテーター』の存在が重要になります。ここでファシリテーターの役割について考えてみたいと思います。

ファシリテーターは、決して議論をある特定のゴールに向けて誘導してはいけません。ワークショップの中で、参加者の考えや意見を引き出し、話し合いを通じて、新たなアイデアや意見を創造できるような「場」のマネジメントをすることが、ファシリテーターの役割になります。ワークショップの議論を聴きながら、議論の方向性が、ワークショップのテーマと別の方向に進んでしまわないように、テーマを提示することも重要です。時には、全く逆の意見を提示して、その意見と対比させながら、自分たちの意見を検証するという機会を提供することも大切な役割となります。

そして、最も重要なのは、「対立」のマネジメントです。参加者間で意見が異なることも多々あると思います。「対立」からは何も生まれません。意見が異なっていたとしても、その意見の背景にある考え方、価値、経験などを相互に共有し、認め合うことができれば、「対立」ではなく、「対話」が可能になります。その「対話」の中から、新しいアイデアや意見を生み出すことが可能になります。ファシリテーターは、「対立」から「対話」へ、ワークショップという「場」のマネージャーとしての役割が求められます。

どのような視点で議論を行っていくか？

ワークショップは、参加者全員が対等に意見を言い合うことが重要です。また「質」よりも「量」で、どのような意見、どのような声も歓迎されます。そして他者の意見に便乗することも歓迎されます。もしかすると、普段では気が付かないところに、新しいアイデアのヒントが隠れているかもしれません。「ひらめき」は、「宝箱」なのです。

議論の方法もいろいろとあります。例えば、未来の姿をみんなで描き、「未来」の地点から「現在」を眺めたときに、「現在」にどのような課題があるのか、ということを考えていく方法があります。これを「フューチャービジョン」と呼ぶことにします。ワークショップでは、まず、ミッション（目的）を言語化し、共有します。次に「未来」の姿（ビジョン）を描き、それを実現しようと参加者の間で「約束」（コミットメント）をします。そして、その約束を守るために、未来から現在まで逆算に、いま、「やるべきこと」を導き出していくことで、具体的な方法を見つけ出していくことができるのです。



**皆さんの「未来」を描き、今日から始めるために ワークショップの開催を
私たちがお手伝いします。**

ワークショップの様子

ワークショップは、白旗地域住民の方々と学生が参加し、アットホームな形で行われました。

第1回ワークショップ（ファシリテーター：矢尾板俊平）

今、商店街の衰退・シャッター通りは、深刻な問題として受け止められています。かつては、買い物客で賑わっていた商店街ですが、大型店舗にとってかわったことで、商店街に元気がなくなっています。このような商店街に未来はないのでしょうか？全国のあらゆる地域では、商店街を昔のように活性化させるために、様々な取り組みが行われています。また、高齢社会の進展により、車に乗らなくなる、つまり脱モータリゼーションの時代が到来することが予測されます。大型店舗は郊外にあるので車を使わなければなりません、高齢化により車を使わなければ、必然的に近所の商店街に買い物するお年寄りが増えるでしょう。そうなれば、商店街は再び活気を取り戻すかもしれません。たとえば新しいサービスとして、買い物に自分で行くことの難しい人々から必要なものや買いたいものを聞き、代わりに買い物をして自宅まで届けるコンシェルジュサービスなど、高齢者向けのサービスを展開すれば、商店街での買い物需要はますます高まると思われます。



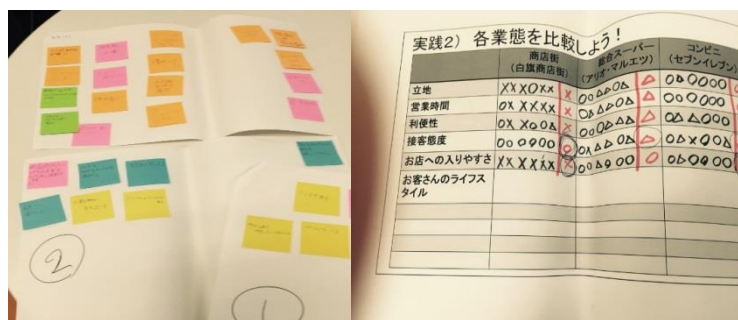
ワークショップの様子

第1回目は、総勢40名程が参加し、活気あるワークショップとなりました。

第2回ワークショップ（ファシリテーター：野坂美穂）

第2回目は、マーケティングや商店街の成功事例等について話をしました。その後、グループごとに、話あった内容をワークシートに記入してもらい、発表してもらいました。具体的な各グループの作業として、商店街、コンビニ、スーパーのイメージについて出し合い、カテゴライズしました。次に、SWOT分析という手法を用いて、各業態の強み・弱みを分析しました。商店街の強み・弱みを把握したうえで、商店街の新たなコンセプトの提案や、どのような商店街であれば行きたいと思うかなど未来の商店街に向けた話し合いが行われました。

日頃、学生が商店街に足を運ぶことは、そう多くはありません。このような中で、どうすれば商店街の皆さんや地域住民の方々と交流する機会を日頃から設けることができるか、真剣に考える場となりました。



ご意見

（商店街について）商店街は、いいところがたくさんあるのになあ。

- ・街の魅力として、白旗には白旗商店街や住宅地、学校など、実は見直してみると、色々と良いところがたくさんある。
- ・商店街の人々は壁がなく、温かい人が多いが、学生は会う機会もなければ、挨拶する機会もない。今後は、地域の人々と学生が接触する機会づくりが求められる。普段の地域住民や学生との接触回数をどのように増やしていくかが課題である。

（イベントについて）地域を活性化するには、イベントも一つの有効な手段かな？

- ・イベント×コンテンツ×メディアのうち、コンテンツが最も重要である。コンテンツづくりが一番重要であるが、学生の視点から作っていくと良いのではないかな。
- ・街のオンリーワン戦略を追求することが重要。
- ・集まりやイベントには、継続性や持続可能性が必要。
- ・若い人と年配の人で考え方が全く異なることも問題である。これは、祭りやイベント・企画でも価値観の違いが生じてしまうのではないかな。

（地域活性化について）地域を盛り上げて、人の交流を活発にするにはどうしたらいいかな？

- ・地域活性化とは、ヒトをひっぱりだすこと。たとえば、サラリーマンを辞めてリタイアした人々をいかに寄せ集めるかが課題。
- ・地域活性化が上手くいっているところは、リーダーシップが発揮されている。
- ・学生が地域の魅力を見つけてほしい。

（七夕祭について）もう少し盛り上げたいな。今年はこんな風にしたいなあ。

- ・名物となるようなイベントにしたい。もっと集客したい。
- ・行政と町内や商店街などの住民と方向性がバラバラなので、一つの方向性に整えていきたい。
- ・グランドゴルフは、学生と町内会と対抗戦にして、盛り上げていきたい。
- ・今までやってきたことを継続的に、規模を大きくしていきたい。
- ・他のイベントとコラボさせると良いかもしれない。
- ・もう少し学生が主体的に関わってほしい。

これらは、白旗の地域住民の方々と学生が、オープンに話し合うことで出てきた意見です。

ワークショップという形をとることで、様々な想いが、ありのままの言葉になります。

まずは、オープンな雰囲気づくりに努め、そこから「真の対話」が生まれる。

地域活性化に必要なことは、「ヒト」と「ヒト」、「心」と「心」の結び付きであると感じました。

そこで、2月21日（土）に白旗の町内会の皆さん（約20名）と淑徳大学の学生と教職員（約15名）で、地域交流会を開きました。

地域交流会の目的は、学生と地域の方との交流機会を増やしていくきっかけを作るとともに、炊き出し訓練によって非常時への備えを万全にすることで、地域と大学（学生）の共助の精神を養い、防災・減災意識を高め、災害時における支援体制を交流の中から構築していこうという点にあります。

当日のメニューは、豚汁と焼きそばでした。必要な材料は、白旗商店街の八百屋、精肉店、お豆腐屋から調達し、白旗商店街にも貢献をしました。今回、60人分を想定して作りましたが、大人数の食事を調理することは、予定よりも多くの時間を要し、想像以上に大変な作業でした。非常時の中で、円滑に作業を進め、滞りなく食事を全員に支給するには、日頃からのコミュニケーションと適切な役割分担が重要であると実感しました。



みんなで作った焼きそばと豚汁はおいしいね。 60人分は、大変だなあ。

また学生達は食事をしながら、町内会の方々に、昔、白旗がどのような様子であったのか、また地域住民の白旗に対する想いなどについてお話を伺いました。また、近所の子供達も当日参加してくれました。

交流会に参加して・・・学生の感想

私は、四年生でもう関わることはないかもしれませんが、白旗の方々から後輩達に白旗のことを伝え、白旗の町の活性化の足掛かりにしてほしいと頼まれました。そして、お神輿などにも積極的に参加してほしいと言われました。私は祭りなどの行事に参加することで、白旗の町内会と淑徳大学の関係性を深めていくことも、白旗の地域の活性化に繋がるのではないかと考えます。今後、またこういう機会があれば淑徳大学の後輩達には、是非積極的に参加してもらいたいと思います。(学生A)

地域住民の方々のお話の中で、昔から建物とかは色々変わったりはしているけれども、人のなりは昔から変わらないと力強く言っていました。昔から変わらず、みんなの中で困っている人がいたら、家族だと思って助け合ってきた、だから白旗の人は壁を作らず仲良くできるのだよと言っていました。今回、住民の方々からたくさん勉強させてもらったと思い、参加して良かったと感じました。(学生B)

行事でも何でも一生懸命に行動していれば、誰かは見ていてくれるのだよ。だから、君たちも、仕事をしっかりと頑張っていれば、絶対に認めてくれる人がいるからと、町内の方が言ってくれました。自分もその言葉を信じて頑張ろうと思いました。(学生C)

自分もこういった文化や伝統のある町に住みたいと思いました。本当の魅力はこの町の人達となら一緒に暮らしていたら楽しいし、安心して暮らしていけると思えることだと思いますし、ここに一緒に住みたいと感ずることができなのが魅力なのだと思います。(学生D)

学生による取材レポート！白旗の人々に、あれこれ聞いてみよう！

地域交流会では、焼きそばや豚汁を食べながら、地域住民の方々に色々な白旗のお話を取材しました。お話を聞く中で、学生一人一人が感じた何かがあったようです。

白旗の魅力とは何か

魅力1 行事が盛り沢山！

白旗は、七夕祭りや夏祭りなどたくさんの行事があり、年中地域の人々が集まっては賑わっている。こういった地域の行事は年配の方が、小さい小学生くらいまでの子供が参加するくらいで、あまり活発でなくなってきた地域も増えている中で、普段は閑散とした住宅地である白旗でも、行事になるとたくさんの人々が積極的に参加し、活発的に継続されており、その地域のつながりは強いものである。

魅力2 暮らしやすい街！

白旗にはたくさんの魅力があり、住民の方々は「困ったことはない」と言っていた。さらに白旗には、コンビニはもちろん、スーパーや八百屋、肉屋、喫茶店、靴屋に時計屋、交番、公園、保育所や病院もあり、身近にさまざまな店、施設があるため非常に暮らしやすい地域である。自営業の店が多いせいか、店の人々は皆とても優しく、自分もバイクを倒してしまったとき八百屋のご主人に助けてもらったことがある。

魅力3 真剣に街のことを考える人々

白旗の魅力について、私は町内会の方々が、本気で白旗の活性化について考え行動に移していることそのものが、白旗町内会の魅力ではないかと思います。私は、自分の住む町で町内会など、聞いたこともありませんし、そのような会に参加したこともありません。私が知らないだけかも知れませんが、白旗の人達は、私達に活性化のことを伝え、今後どのようにしていくかということも明確に考えていました。白旗の人は、まず一人一人がやれることを考えやることに意味があるのだと言っていました。私が、後輩達に白旗のことを伝えていくことで、よりよい白旗の活性化に繋がりそれがまた白旗の魅力になると感じました。

白旗のむか～しむかし

白旗の昔ばなし1

白旗は戦争時に使用していた戦闘機を作る場所で、それらを作っている人たちの寮があったそうです。周囲は一面、田圃だったようです。終戦になり、平和になってからしばらくして、川崎製鉄（現：JFEスチール東日本製鉄）が神戸から千葉工場をつくるために来て、大きな社員寮ができたそうです。その影響もあり、お店を開く人々が増え始め、当時は今とは違って想像できない程、発展していた商店街だったそうです。他には、映画館もあったそうです。

白旗の昔ばなし2

昔、白旗商店街は千葉県でもトップレベルの商店街だったそうです。それが今では、人通りも少なく町じたい物静かなイメージがあります。地域住民の方は、年齢層も高くなり、昔ほどの、賑わいを取り戻すのは難しいと言っていました。しかし、当時の商店街の賑わいなど、伝えていということは必要だと思いました。

知らなかった！白旗トリビア

● 17本のバスの発着点

白旗の前にあるバス停ですが、あのバス停はただ一つの路線の通過点に過ぎないように見えますが、実はいくつもの路線の発着点で、その数なんと17本です。昔は発展していた商店街に買い物をしに行くために、色々な場所から来られるように、幾つもの路線ができたのかなと思いました。

● 地名「鵜の森」の由来

鵜の森は、昔、大巖寺というお寺の横に、鵜が大量に止まっていたことから鵜の森という名がつけられたようです。今、鵜がいないのは、空気が汚染されてしまったからだそうです。

白旗のおすすめポイント

おすすめポイント1 白旗神社

白旗神社は、歴史ある神社です。

おすすめポイント2 お神輿

白旗のオススメポイントは、毎年恒例の10月に行われるお神輿を運ぶお祭りだと思います。白旗会館が本部となって公園の近くをしっかりと正装をして、お神輿を担いで地域を回るとするのがオススメの楽しいイベントだと思います。

おすすめポイント3 温かい人々

白旗のオススメポイントは、こういう機会でしか、話すこともなかったと思いますが、初対面である私達を快く受け入れてくれる心の温かい人達がいることです。

おすすめポイント4 銭湯

千葉市の中では、一番大きい浴槽と言われている銭湯があるそうで、白旗に住んでいる人は必ず行っている銭湯だそうです。

【コラム①】白旗七夕祭り

毎年、7月第1週の土曜日には、七夕祭りを開催しています。

昨年度は、白旗商店街のスタンプラリー、白旗公園での子ども縁日などを開催されたほか、淑徳大学のサークルによる大道芸やダンス披露などが行われました。



また、昨年度は新たな試みとして、「オープンちば！」の皆さんと一緒に、白旗会館にて、「白旗おもいでポスト」を開催しました。「白旗おもいでポスト」は、千葉市内の昔の写真、白旗の思い出の写真を展示し、写真の風景を見てもらいながら、思い出を語ってもらい、それを記録に残していこう、という取り組みです。学生にとっても、千葉の昔の話、白旗の昔の話を聴くことができる良い機会になりました。

まちづくりは、「ハードからソフトへ、ソフトからハードへ」。心と心の結び付きが、「まち」を作り、「まち」を元気にしていきます。世代を超えて、地域と大学が一体となって、「心」と「心」を結ぶことを目標に続けている七夕祭りも15年以上の歴史が積み重なっています。

また、行事の時だけではなく、淑徳大学では、白旗地域の中の空き店舗を借りて、「絆カフェ」を運営し、地域との連携・交流を図りながら、大学生が地域の中で、学んでいます。



白旗町内会の生い立ちと、白旗今井神社の経緯

昭和14年	日立航空機(株)(本社・東京都大森 工場:大森、立川)は千葉市と工場誘致に調印する。
1939年	場所:川崎製鉄 千葉製鉄所の敷地 現在のJFEスチール東日本製鉄所千葉地区
(75年前)	現在の白旗町内会、南町鉄道住宅アパート、鵜の森町内会、
	青年学校(現蘇我病院)校舎、生徒用宿舎(白旗一丁目市営アパート)の誘致を決定する。
昭和15年	日立航空機(株)の社員社宅の建設に入る
	現在の白旗町内会に二戸建、四戸建を、鵜の森町内会にも二戸建、四戸建を建設する。
昭和16年	工場敷地埋め立て開始並びに工場建設に入る
	南町鉄道住宅アパートの場所に職員独身寮並びに給食所の建設に入る
昭和17年	日立航空機(株)住宅組合として発足、(番地は今井町1,100番地)
1942年	初代組合長(白旗町内会・会長)に鵜の森在住の渡辺初太郎さんが就任
(72年前)	住宅組合発足と同時に会館建設の話が持ち上がる。
	その会館建設予定地に小さな祠あり、祠の中に今井神社のお札が入っていた。
	誰が建てた祠かも不明であり、そのままに出来ないので、検討の結果、
	移転することに決定。そのあとに白旗町内会館を建設した。
	祠の移転先はくすの木のある現在の神社の処に決定。
	費用は住宅組合員の寄付により行う。お札は蘇我駅の近くの今井神社より新しくもらい
	神社の名称を神主さんと相談の結果、白旗今井神社とすることを決定。
	尚、会館と神社の建設材料は花嫁学校(女学校)「現在の蘇我中」が
	終戦時廃校になっていた建物を日立航空機が購入し、解体して
	建設材料に用いた。
昭和20年	終戦と同時に社宅従業員に払下げとなる。(坪単価:500円)
	企業整理法が出来、これに伴い白旗町内会、鵜の森町内会にそれぞれ分離独立する。
昭和51年	神社を改築する。
	現在では10月秋の例大祭は寒川神社の宮司さんにより、祭礼式典を執り行っている。
	旧鵜の森町内会と関係から今でも、祭礼は同日行ない、鵜の森町内会からは
	毎年、白旗今井神社に山車が繰り出されている。



【コラム②】データでみる「白旗」の20年

地域づくり、まちづくりを考えるためには、「データ」の活用が重要となります。行政（国、都道府県、市町村）では、様々なデータを公開し、利用することができます。そのデータを活用することにより、「まち」がどのような変化を経てきたのか、今後、どのような課題に直面するのか、などを考えることで、未来のビジョンを描き、それにたどり着くための方法も考えやすくなります。

図1は、千葉市が公開している住民基本台帳の町丁別・年齢別の人口データで、平成27年3月末時点のものです。このデータから、白旗の「現在」は、40歳代（14.9%）、60歳代（16.5%）、70歳代（15.7%）が多く、2つの「山」があることがわかります。また高齢化率の指標となる65歳以上の年齢割合は、約33%と高齢化も進んでいることがわかります。「まちづくり」を進めていくためには、「世代間交流」を通じて、まちを元気にしていくことが重要であると考えられます。

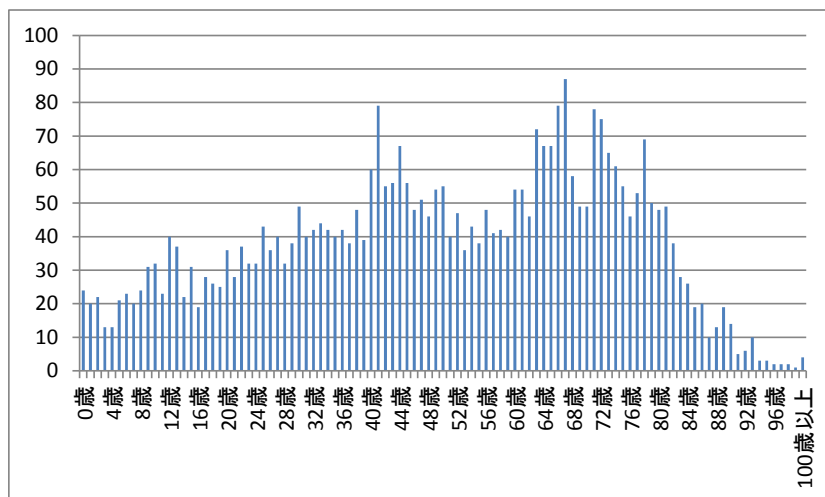


図1. 平成27年3月末時点の年齢別人口

出所：千葉市

次に、20年前と10年前の「白旗」の姿を確認してみましょう。図2は20年前（平成7年3月末時点）のデータで、図3は10年前（平成17年3月末時点）でのデータです。

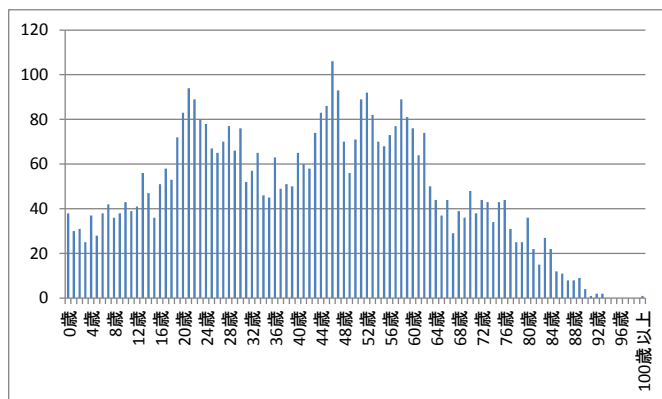


図2. 平成7年3月末時点の年齢別人口（出所：千葉市）

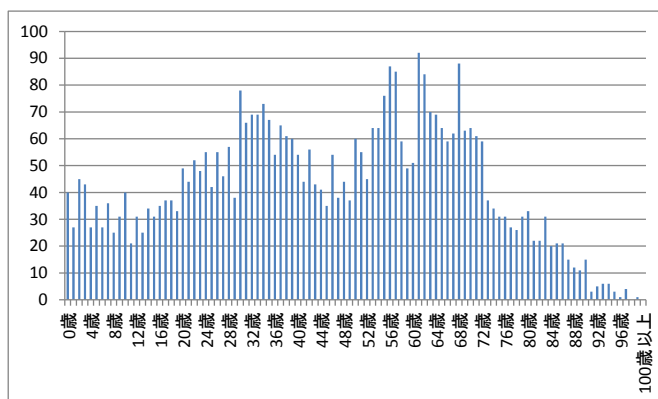


図3. 平成17年3月末時点の年齢別人口（出所：千葉市）

白旗の「20年前」は20歳代（20.1%）、40歳代（19.6%）、50歳代（20.8%）が多く、2つの「山」があることがわかります。また高齢化率の指標となる65歳以上の年齢割合は、約15.6%でした。また白旗の「10年前」は30歳代（17.3%）、50歳代（16.8%）、60歳代（18.3%）が多く、2つの「山」があることがわかります。また高齢化率の指標となる65歳以上の年齢割合は、約23.3%でした。つまり、10年単位で、2つの山が少しずつ右に動いていて、人口構造は大きく変化していないことがわかります。また人口の総数は20年前が4,753名であったところ、現在は3,830名です。白旗地域を元気にしていくこと、地域の課題を解決していくためには、若い世代の方に引っ越してきてもらったり、コミュニティ活動を大学生がお手伝いしたりして、「世代間交流」を進めていくことがとても重要であることがわかります。

白旗地域活性化についての考察

白旗町内会 会長 海老原啓明

はじめに、白旗地域活性化について、淑徳大学の皆さんが活動を通して、実践していただいている事に感謝致します。

ご他聞のもれず、当白旗地域も少子高齢化が進んでおります。

他の自治会、町会に比べて特筆するのは、商店街が存在するという事です。一昔前はそれは白旗銀座通りと呼ばれた時期もあり、賑やかな通りでした。

しかし、昭和50年代から「ヤックス」、平成に入ってから「マルエツ」という、大店舗が出来、その結果白旗商店街の売上は減り、子供達に店を継がせても、生活が成り立たないという商店主の考えから、自分の代で店をたたむところが大半です。従って、もう少し店を小奇麗にしたらもっと客足は増えると思う事が、これ以上の投資は行わないという悪循環になっております。

客足がむく何かいい考えはないものかと、これまで淑徳大学の後押しで七夕飾りをかざってイベントを重ねてまいりました。

白旗町内会としても、夏の納涼盆踊り大会、秋祭りを開催して活性化を図ってまいりましたが、一過性の域を出ないのが残念ながら今の現状といえるでしょうか。

私は以下の点で白旗の町は非常に住みやすい町で有ることを声を大にして言いたいと思っています。

JRの駅、私鉄の駅が歩いて行ける距離にある。

保育園、小学校、中学校、が町内及び近隣にある。高校は千葉工業高校、大学は淑徳大学が近隣にある。

銀行は、2行町内にあり、郵便局も税務署も近隣にある。

交番も町内にあり、消防署も近隣にある。

医療機関（内科、産婦人科医院、歯医者、鍼灸院）は町内、三愛蘇我病院、千葉メデカルセンター等の総合病院は歩いて行ける近隣にある。

野菜、果物、魚、肉、衣類、生花、豆腐等の小売店、クリーニング店、薬局、スーパーマーケット、セブンイレブン、理容室、美容室、不動産屋、自転車屋、銭湯まで町内にある。

これだけのものが揃っている町は中々ないと自負しております。

子供を育てるには適している町であります、新住民が住める場所がないというのが欠点でしょうか。

地域の活性化という事については、現存の住民だけで考えていくのはいささか無理があり、新住民が住める環境の整備が不可欠であろうと感じております。

7月の白旗七夕祭り、10月のお神輿担ぎに学生たちと一緒に参加し地域の活動を身をもって学ばせていただいています。

そのようなイベントでお会いする白旗地区の皆さんは知力・パワーが溢れる方々が数多く、私がまだ知らないだけで能力溢れる方々が白旗には数多く在住していらっしゃるだろうと感じています。大学はまだまだ地域づきあいベタですが、「白旗で多くを学んだ」と言って卒業していく学生を一人でも多く私は育てたいです。

淑徳大学コミュニティ政策学部助教・サービスラーニングセンター長
本多敏明

【編集後記】

本年度、千葉市中央区地域づくり活動支援事業の助成を受け、「フューチャービジョンワークショップ」や「地域交流会」、そして本フリーペーパーの発行を行いました。100 の地域があれば、地域活性化の方法も 100 通りあると思います。しかしながら、地域活性化、まちづくりにおいて、「心」と「心」の結び付きが必要であることには変わりはありません。これからも産官学地域連携を通じて、地域を元気にする活動を行っていききたいと思います。（やおいた）

支援事業を推進するうえで、町内会をはじめとする白旗の皆様ならびに千葉市中央区役所の職員の方々に、多大なるご協力をいただきましたこと、この場を借りて、改めて御礼申し上げます。地域の方々からは、「若い学生の力が必要である。」という声をお伺いする一方で、活動に参加した学生からは、「参加してよかった。」「面白かった。」という声を聞くことができ、世代間交流はこれからも継続して行っていくべきであると強く感じました。淑徳大学の学生が地域の一員として、街の未来を担う一当事者として、今後も積極的に関わる機会を設けていきたいと思っております。（のさか）

私は今まで地域の課題解決に関する、様々なワークショップに参加してきましたが、今回初めてファシリテーター側として参加しました。場をつくることの難しさと、参加者の考えを引き出すことの難しさを痛感しました。また、話し合いを重ねていくことで、素晴らしいアイデアが生み出されることを知り、場の大切さを学びました。今後、このような場の大切さを広めるとともに、様々な場面で生かしていければと思いました。（きむら）

「地域を元気にする」お手伝い ぜひお声掛けください！

編集：野坂美穂・矢尾板俊平

発行人：矢尾板俊平

表紙デザイン：浅井由剛（株式会社カラーコード）

印刷所：正文社

発行日：2015 年 3 月 31 日

お問い合わせ：〒260-8701 千葉市中央区大蔵寺町 200 淑徳大学コミュニティ政策学部矢尾板俊平研究室

電話番号：043-265-7331（代）

※本冊子は、千葉市中央区地域づくり活動支援事業の助成（事業名：未来の商店街を創造するフューチャービジョンワークショップ）を受けて制作・発行されました。